

復興庁「企業連携プロジェクト支援事業」

季節の旬を楽しむ移動式カフェ事業

平成 26 年 3 月

目次

1. 当該事業者等の概要	1
2. 直面していた課題および本事業の支援対象事業の概要.....	1
3. 本事業採択後の取り組みとそれぞれの成果	3
4. 最終的な成果.....	12
5. 今後の計画.....	15
6. 被災地等の他事業者へのインプリケーション.....	16

1. 当該事業者等の概要

磐梯リゾート開発株式会社¹（以下、「磐梯リゾート社」という。）は 1987 年設立され、東北エリアで有数の広さとコースのバリエーションを誇るスキー場のほか、ゴルフ場、ホテル等を運営する複合リゾート事業者である。磐梯高原に位置する同社は、広大な敷地内に変化に富んだ豊かな自然、磐梯山や会津若松市街、猪苗代湖を望む良好な景観を有している。

同社のリゾート施設が立地する磐梯町の概要は次のとおりである。

図表 1 磐梯町の概要

人口・面積	3,748 人（男性 1,827 人 女性 1,921 人） 総面積 59.69 平方 km
位置・地勢	<ul style="list-style-type: none">・ 福島県会津盆地北東部に位置し、磐梯朝日国立公園内の磐梯山や厩岳山・猫魔ヶ岳等を北限として、南限は猪苗代湖を水源とする一級河川日橋川が流れている。・ 町土の約 70%は森林が占め、山々の南山麓を扇状に広がる丘陵地や山麓の湧水を水源とする一級河川の大谷川に沿って、農用地や居住地を構成している農山村地帯である。 
特産物	磐梯そば、磐梯西山麓湧水群「龍ヶ沢湧水」（日本名水 100 選指定）、はちみつ、りんご／磐梯りんごジュース、法正尻ほうれんそう、生しいたけ／乾燥しいたけ、乳製品、日本酒 など

（資料）磐梯町ホームページより転載。

2. 直面していた課題および本事業の支援対象事業の概要

① 直面していた課題

磐梯リゾート社及び同社が立地する磐梯町では、「会津若松中心の周遊型観光から磐梯町での滞在型観光へ脱皮」を目指しており、より具体的には、次の課題に直面している。

グリーンシーズン（冬期以外）の魅力創出

冬期は磐梯リゾート社が経営する東北有数のスノーリゾートを核に集客に成功しているが、年間を通じた集客の観点から、グリーンシーズンの魅力創出を図り、集客拡大が求められている。

スキーリゾート施設の有効活用

スキー場の関連施設（レストハウス、ゴンドラ等）は、グリーンシーズン中（オフシーズン）は閉鎖されている遊休施設であり、一部には許認可の問題があるものの、その有効活用は磐梯リゾート社にとって重要な経営テーマの一つとなっている。

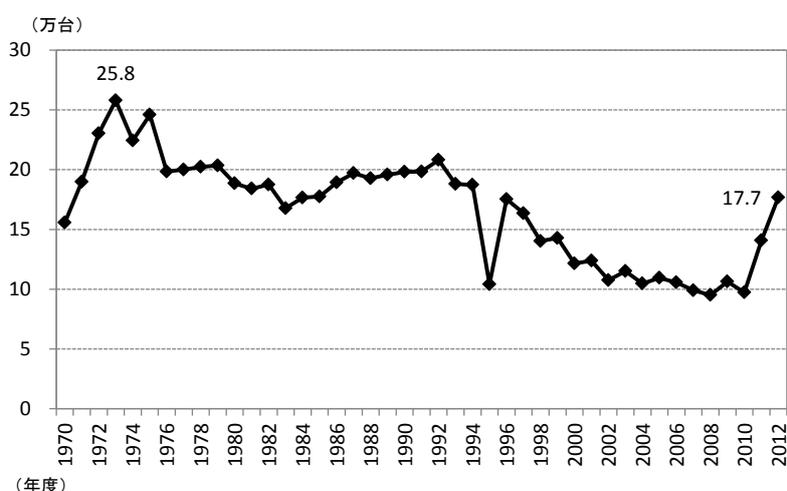
¹ 福島県耶麻郡磐梯町大字更科字清水平 6838 番地の 68

主要幹線道路からの誘客

磐梯リゾート社の敷地内を縦断する道路「磐梯山有料道路（愛称：磐梯山ゴールドライン）」（以下、「ゴールドライン」という。）²は、会津若松市や猪苗代湖と裏磐梯をつなぐ道路として年間 10 万台以上が通過している。しかし、両地域間の通行のみに使われ、途中に位置する同社施設や磐梯町内への立ち寄り客の誘致・売上拡大に結びつけられていない。

なお、ゴールドラインは 1992 年度以降減少傾向あり 2010 年度までは約 10 万台に留まっていたが、2011 年度途中からの無料開放により、通行台数が大幅に増加している。この機会を上手く捉え、いかに誘客するかが課題となっている。

図表 2 磐梯山ゴールドラインの通行台数



（資料）福島県道路公社「観光有料道路 3 ラインのあゆみ」より作成。

（注）平成 25 年 7 月 24 日で料金徴収期間が満了し、7 月 25 日から福島県に移管され、一般の県道として恒久的に無料開放された。なお、2011 年 7 月 16 日から県の観光復興施策による無料開放措置が取られた。

②本事業の支援対象事業の概要

支援対象となる事業は二つあり、一つは磐梯リゾート社の新規事業としての「地域の場所の旬（＝食、風景）を一流のおもてなしやセンスとともに楽しんでもらう移動式のカフェ事業（フィールドカフェ事業）」（以下、「磐梯カフェ事業」という。）である。もう一つは、このカフェ事業の東北地方各地への展開（以下、「他地域展開事業」という。）である。

このカフェ事業の特徴であるが、一般的な屋外カフェはこれまでであったが、これらは単に「屋外に（＝青空の下に）カフェがある」というだけであり、自然や景色の魅力を最大の「売り」にするというものではなかった。一方で、単に大自然を「売り」にするだけではそれはバーベキューなどが似合う単なる「アウトドア」でしかない。この両者を調和させてハイセンスな空間やサービスの提供を目指す点がこのカフェ事業の新しさである。また、このようにその場所の自然や景色の魅力を最大限引き出しながらカフェ空間づくりを図るため、店舗型の一般的なカフェに比べて設備投資が少なく済む点が特徴である。

この新しいスタイルのカフェは、地域づくりのプロデュースなどを手掛ける株式会社プ

² 総延長 17.6km で、1970（昭和 40）年 6 月 1 日共用開始。南は磐梯町、北は北塩原村までの区間。

ロットアンドアジアパシフィック（以下、「プロット社」という。）が2002年に北海道・富良野で試み始めたものであり、2012年にも北海道において2週間程度の期間限定で営業している。このカフェ事業の本格展開として、磐梯町での事業化のほか、東北地方各地での展開が目指されている。

3. 本事業採択後の取り組みとそれぞれの成果

前記の磐梯カフェ事業および他地域展開事業について、取り組みと成果を述べる。

①磐梯カフェ事業

磐梯リゾート社では、プロット社のプロデュースのもと、食、自然、もてなしの地域資源の発掘を行い、コンセプトづくり、ターゲット設定、プロモーション戦略の立案や、地元の素材や職人等とのコラボレーションによる提供メニューの創作、テーブル、椅子、ファブリック、カトラリー、接客等に至るまで厳選した上質の空間を創るのが目標である。

バリエーションを持たせた複数のカフェを営業するとともに、営業期間については、数日のイベント的営業や2週間程度という短期だけではなく、半期や通年など常設での営業も目指すものである。

(A) 事業企画の検討

関係者間で討議を重ね、次のとおり議論を取りまとめた。

(a) コンセプト

キーワードとして、「スタイリッシュ」、「カッコイイ」、精神的豊かさを表現する「スローラグジュアリー」などが挙げるとともに、野外でも一流の接客や料理が提供されるべきだとして次のコンセプトを決定した。

図表3 設定したコンセプト

コンセプト：『四季体感型カフェ』
・ 場所の「旬」を五感で楽しむ新たなカフェスタイル。
・ 広大な敷地の中で四季折々の自然を満喫できるベストロケーションをハンティングしてカフェを設置。
・ 次の2つの『非日常』を融合させた空間・時間を演出。キャンプやバーベキューが似合うような「アウトドア感」は打ち消す。
I 自然解放型のしつらえが創り出す非日常
II ラグジュアリーな設え・サービスが創り出す非日常

前記コンセプトに基づくカフェのイメージを伝えるため、イラストを制作した。事業のプロモーションなどで活用していくこととした。

図表4 フィールドカフェのイメージ



(b) ターゲット

磐梯リゾート社が経営する「磐梯山温泉ホテル」は通年で集客があり、冬期には多数のスキー客を確保している。そこでホテル宿泊者とスキー場来場者をベース顧客とし、その上でゴールドライン通過者や周辺都市住民の誘客を狙うこととした。

図表5 設定したターゲット

- 磐梯山温泉ホテル宿泊者とスキー客をベースに、3グループを想定。
- ①磐梯山温泉ホテル宿泊者（春～秋）
スキー場来場者（日帰り・宿泊）（冬）
 - ②磐梯山ゴールドライン通過者の立ち寄り客
 - ③周辺都市からのカフェ目的の誘客
- ※上記③の誘客では、以下(A)から(C)の順で徐々にターゲットを広げる。
- (A)中通りの都市部（福島市、郡山市等）
 - (B)新潟県、茨城県、仙台市
 - (C)首都圏

(c) カフェの企画内容

磐梯リゾート社の広大な敷地内には、カフェの設置場所候補となる魅力的なスポットが数多くある。例えば、磐梯山や猪苗代湖の雄大な景色が楽しめる場所、桜や紅葉を楽しめる場所、滝のそばで大迫力を楽しめる場所などである。敷地内は標高差もあり、時期に応じて魅力的な場所も移動する。その時々ベストロケーションでカフェを設置すれば、バリエーションをつけることもできる。

本事業での検討の結果、磐梯リゾート社が展開するカフェの名称を「磐梯天空カフェ」とし、平成26年4月下旬に第一弾をオープン、7月中旬に第二弾をオープンする予定で企画立案を行った。

図表6 立案したカフェ企画

カフェ名称	磐梯天空カフェ	
バリエーション	空床「sora-toko」	山床「yama-toko」
正式名称	磐梯天空カフェ 空床「sora-toko」	磐梯天空カフェ 山床「yama-toko」
魅力の源泉 (訴求ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋上テラスでの360度パノラマ ・ 磐梯山や猪苗代湖の眺め ・ サンライズ、サンセット、雲海の景色 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 磐梯山の眺め ・ ゲレンデが広がる解放感
営業場所	リゾートセンター屋上	ゲレンデベース
営業期間・時間	4月26日(土)～10月31日(金) 6:00～9:00 16:00～19:00 (注)5月3日(土)～5月6日(火) は10:00～15:00も営業。11月は天候 等を踏まえて営業。	7月12日(土)～10月31日(金) 11:00～17:00 (注)11月は天候等を踏まえて営業。
空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄パイプ製展望テラス(木製の床面、48㎡) ・ テラスへの鉄パイプ製アプローチ(木製の床面、20m超) 	芝
規模(席数等)	パラソル2張 テーブル5個 イス 20席	パラソル5張 テーブル10個 イス 40席
提供メニュー	アルコール含むドリンク販売限定	リゾートセンターレストランのテイクアウトメニュー等
オペレーション (受付・接客・調理)	受付: ホテルフロント 接客: ホテルスタッフ 調理: センター内レストラン厨房	受付: リゾートセンター内カフェ 接客: ホテルスタッフ 調理: センター内レストラン厨房

(d) メニュー

フードはワッフルやサンドイッチといったカフェメニューを提供する。ドリンクではアルコールも提供するため、酒肴となるものも提供する。地元産食材については、質が高く、カフェコンセプトに合致するものは積極的に取り入れていく方針とした。

図表7 検討したメニュー案

メニュー名		価格	特記事項
フード			
1	バターとハニーのワッフル	1,000 円	地元産はちみつ使用
2	フロマージュ・ブランとベリーワッフル	1,000 円	地元産はちみつ使用
3	チキンとチーズソースの冷製サンド	1,200 円	カフェ事業用の新メニュー
4	トマトとハムのホットサンド	1,200 円	カフェ事業用の新メニュー
5	ピクルス盛り合わせ	600 円	
6	ウィンナー盛り合わせ	800 円	
7	グリッシーニと生ハム	800 円	
8	美味しさ保証付きカレー	1,000 円	
9	美味しさ保証付きカレー (ほうれん草)	1,300 円	地元産ほうれん草使用
10	ほうれん草ソテー	800 円	地元産ほうれん草を使用
ドリンク			
1	コーヒー	500 円	
2	スパークリングワイン (グラス)	1,200 円～	
3	赤ワイン・白ワイン (グラス)	800 円～	ボトル、山形産ワインなど
4	赤ワイン・白ワイン (ボトル)	2,500 円～	
5	りんごジュース	600 円	磐梯町産りんご使用 (他社製)
6	ももジュース	600 円	福島県産桃を使用 (他社製)
7	オレンジジュース	550 円	
8	グレープジュース	550 円	

(e) カフェ設置ツール

野外でカフェ空間を創り出すためのイスやテーブル、屋根部分 (テントやパラソル等) について、磐梯カフェオリジナルのツールを模索するべく、インテリアデザインなどを手掛けるキリハラワークス&デザイン (宮城県仙台市) のデザイナー桐原正憲氏と協議を行った。

(f) プロモーション

磐梯リゾート社のホームページのほか、タウン誌や情報サイトなどを活用する。

図表 8 検討したプロモーションプラン

区分	具体的媒体・手段	タイミング・発信内容 等
ウェブサイト	磐梯リゾート開発ウェブサイト	・ 3月24日(月)にウェブサイトに掲載予定。 ・ フィールドカフェのコンセプト及びその実現第一弾「空床」、第二弾「山床」の営業を公表。福島大学との連携による授業で4月の学生受け入れを公表。
	星野リゾートウェブサイト	・ 磐梯リゾート開発ウェブサイトでの公表後、星野リゾートウェブサイトでの情報発信を調整。
	ネットエージェントの活用	・ じゃらん、一休、楽天トラベル等への告知
	情報サイト	・ 福島県の情報サイト「ふくらボ！」(月 200万ページビュー。毎日の利用者数約 10,000名)
雑誌 ・タウン誌	福島の情報誌	・ 福島県の有料情報誌「Mon mo (モンモ)」(隔月)
	栃木、茨城、群馬の情報誌	・ 栃木のフリーペーパー「トチペ」 ・ 茨城のフリーペーパー「サクラサクライフ」 ・ 栃木・茨城・群馬のフリーペーパー「クルール」
その他	福島大学との連携	・ 磐梯町をフィールドとした地域活性化策を検討する授業を平成26年度の大学1年生向け授業で実施。 ・ 連携の取り組みについて磐梯リゾート社や大学からの情報発信を予定。
	地元イベントとの連携	・ 磐梯町夏祭り(毎年2,000~3,000人の来場)、磐梯町秋そば祭り(2日間で3,000人超が来場)を想定。

(B) 産学連携

以下の2つのテーマでの大学との産学連携を模索した。

(a) 地域活性化を学ぶフィールドの提供と活動を通じた話題作り

前述の「直面している課題」に記載とおり、磐梯リゾート社及び磐梯町は、ゴールドラインからの誘客など観光目的化への課題を抱えている。そこで次の2つを目的として、近隣の大学と連携を図る。

- ①マーケティング論などの専門家や大学生と連携を図り、磐梯カフェや磐梯町のその他の地域資源を活用した誘客策の新しい切り口を得る
- ②大学生が地域活性化について学習できる場および活性化策を実際に提案し地域貢献できる場の提供によって話題性を作り、パブリシティなどを通じてカフェや磐梯町の認知度向上を図る

検討を進めた結果、福島大学経済経営学類の中村陽人准教授及び同教官が開講する授業の所属学生(20名程度)と平成26年度の授業から連携することとなった。

(b) 野外のカフェが有する潜在的価値の定量化に関する研究

磐梯カフェは自然や景色の優れたところに設置する一流のサービスとセンスで提供する新しいスタイルのカフェである。そこで、森林内での飲食や脇に流れる沢の音を聞きながらの飲食等がもたらす価値の定量化（心地よさや美味しさの変化など）を検討するため、東北大学加齢医学研究所の所長、川島隆太教授と協議を行った。

②他地域展開事業

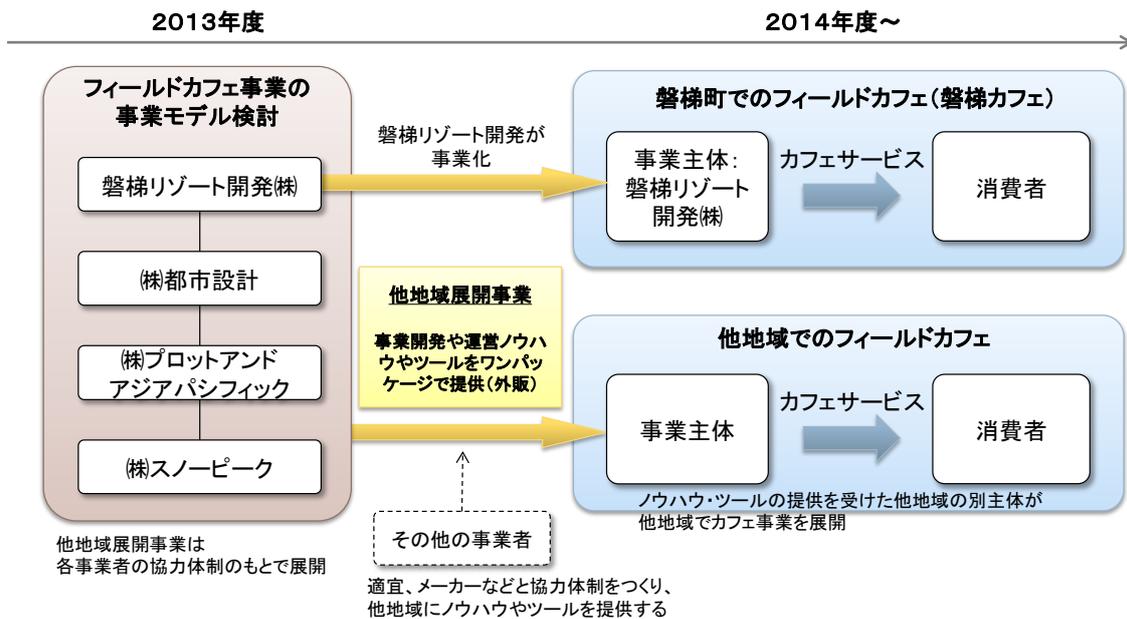
磐梯リゾート社によるカフェの立ち上げと並行して、他地域の事業者のカフェ運営のノウハウやツールを提供して対価を得る事業を検討した。検討結果は以下のとおりである。

(A) 事業企画

(a) 事業推進体制

リゾート経営の磐梯リゾート開発株式会社、地域活性化のプランニングや新規事業企画などを行う株式会社都市設計、まちづくりのプロデュースなどを行い、北海道でのフィールドカフェの立ち上げも経験している株式会社プロットアンドアジアパシフィック等の事業者の協力体制もとで展開する。

図表 9 他地域展開事業の全体像



(b) サービス内容

カフェ空間づくりの「ツール」とカフェ事業の開発・運営の「ノウハウ」の両方をワンパッケージで提供する。前述のコンセプトに沿った空間づくりやメニュー開発などにはノウハウが必要であり、ツールと合わせて提供することで事業化を促す。

なお、提供するノウハウは、顧客への景色の見せ方・切り取り方（ただ単に自然の中で食事してもらえばよいというものではない）、地元産食材・特産品のメニューへの取り入れ方・調理法（地元産ばかりを提供することがよいわけではない）などである。

図表 10 フィールドカフェ立上げ支援サービスの内容

	サービスの内容
ツール	<p><ツール提供></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 タイプのカフェ設置ツールおよび 2 種類の提供方法（レンタル、買取）を用意（後記参照）し、他地域側の事業主体の予算や事業環境に柔軟に対応できるようにする。 <p><カフェ設置支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドカフェはカフェの設置場所や自然の見せ方（景色の見せ方）が重要となるため、ツールを提供するだけでなく、設置指導までを実施する。
ノウハウ （事業開発・ 運営コンサルティング）	<p><事業性調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地での地域資源調査と、フィールドカフェを展開した場合の売上・経費予測を実施する。 <p><メニュー開発支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メニュー設計、地域特産品の使い方指導、価格設定指導を実施する。 <p><人材育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調理や接客等のオペレーション、カフェ事業全体のマネジメント（原材料や人員等の調達・管理や採算管理など）が可能となるよう、磐梯カフェでの実地研修などで人材育成を実施する。

カフェ設置ツールは、以下の 3 タイプを想定する。どのタイプを選択するかは、設置場所の自然条件、厨房機能の有無、予算を踏まえて選定することになる。

図表 11 カフェ設置ツール 3 タイプ

タイプ		簡易テント	仮設テント	仮設テント +キッチンカー
概要	カフェイメージ			
	空間づくり	簡易な骨組みと布地の「テント」、布地をロープで張った「タープ」で空間作り。	屋根や壁があるしっかりとした骨組みで空間作り。	（左記と同様）
	厨房機能	別途確保。そこから料理を運搬する。	（左記と同様）	厨房を備えた車が横付け。
	設置場所例	林間や傾斜地でも可	景色のよい広場	景色のよい広場
メリット		・地形が制約になりにくい。魅力的な自然	・風雨も避けられ、天候選ばず設置可。	（左記と同様。加えて以下の特徴も）

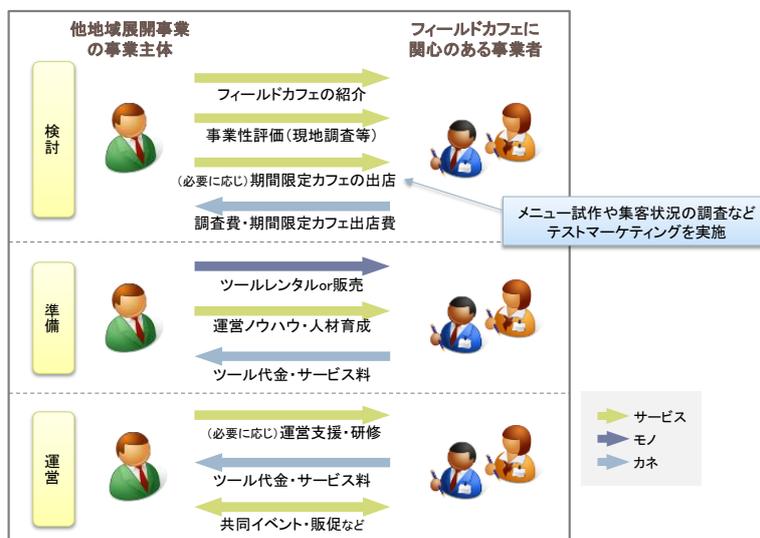
	<ul style="list-style-type: none"> に接近できる。 ・壁部分がなく、自然への開放度が高い。 ・設置に時間・人掛がかからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天候急変に対応可。 ・屋根・壁のデザインの工夫など、空間設計の自由度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房有無が制約にならない。 ・料理の種類を増やすことが可能。提供時に冷めにくい。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の急変に弱い。 ・断熱機能がない。 ・「キャンプ」の雰囲気が出やすい。 ・近隣の厨房有無が制約になる。 ・料理の種類を増やしていく。運搬時に冷めやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きめな平坦地が必要。 ・近隣の厨房有無が制約になる。 ・料理の種類を増やしていく。運搬時に冷めやすい。 ・カフェ設置に時間と手間。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キッチンカーが入れるルートとスペースが必要。 ・キッチンカーの確保に費用がかかる。 ・カフェ設置に時間と手間。
初期費用（参考）	数十万円より * ツール一式購入	十数万円/月より * ツール一式レンタル	数十万円/月より * ツール一式レンタル

(c) 事業展開の流れ

まず、他地域に対してフィールドカフェの紹介（先行事例として磐梯カフェの紹介等）を行う。続いて当該地域の食資源や自然資源（景色など）、カフェ設置場所、商圈などについての事業性評価を行う。必要に応じて、期間限定で当該地域にカフェを出店し、自然資源（景色など）の集客力の確認、地元産品を使ったメニュー試作、来訪者の傾向分析などテストマーケティングを行う。

これらの結果、当該地域で事業性が見込まれ、事業主体となる事業者の意欲が高まって事業を実施するとなれば、カフェ設置ツールや運営ノウハウの提供を行う。

図表 12 他地域展開事業の流れ



(B) 営業

他地域展開に当たっては、①磐梯リゾート社と同様の事業環境や経営課題を抱えている事業者、②新規事業に意欲的な事業者での実現可能性が高いと考え、カフェ事業の営業先として次を候補とすることにした。

①グリーンシーズンの魅力づくり・遊休施設活用を模索しているスキー場運営者

②観光地・施設があり、魅力づくりを模索している地域・団体（飲食業、旅館業など）

上記①は東北 3 県の主なスキー場を営業先として抽出した。上記②は広域観光の推進などの目的で設置された協議会を通じて事業者にコンタクトすることを検討した。

図表 13 東北 3 県（福島県は中通りのみ記載）の主なスキー場

	所在自治体	名称
岩手県	久慈市	平庭高原スキー場
	九戸村	くのへスキー場(村営)
	一戸町	奥中山高原スキー場
	八幡平市	安比高原スキー場
	八幡平市	田山スキー場
	八幡平市	八幡平リゾート パノラマスキー場&下倉スキー場
	盛岡市	岩山パークスキー場
	雫石町	網張温泉スキー場
	雫石町	岩手高原スノーパーク
	雫石町	雫石スキー場
	北上市	夏油高原スキー場
	花巻市	花巻市鉛温泉スキー場
	西和賀町	湯田スキー場(町営)
	西和賀町	志賀来スキー場(町営)
	奥州市	奥州市越路スキー場
	奥州市	ひめかゆスキー場
	奥州市	国見平スキー場(市営)
	一関市	祭時スノーランド
宮城県	大崎市	オニコウベスキー場
	加美町	やくらいファミリースキー場
	仙台市	泉ヶ岳スキー場
	仙台市	スプリングバレー泉高原スキー場
	川崎町	みやぎ蔵王セントメリースキー場
	蔵王町	みやぎ蔵王スキー場 すみかわスノーパーク
	蔵王町	みやぎ蔵王えぼしスキー場
	白石市	みやぎ蔵王白石スキー場
	七ヶ宿町	みやぎ蔵王七ヶ宿スキー場
福島県 (中通り)	二本松市	二本松塩沢スキー場
	二本松市	あだたら高原スキー場
	天栄村	スキーリゾートてんえい
	天栄村	グランディ羽鳥湖スキーリゾート

図表 14 東北 3 県における各種の協議会

団体名	構成市町村
東北のセンターライン・未来プロジェクト推進協議会	【宮城県】大崎市、登米市、南三陸町 【山形県】最上町
盛岡・八幡平広域観光推進協議会	【岩手県】盛岡市、八幡平市、宮古市、雫石町、葛巻町、岩手町、滝沢村、紫波町、矢巾町、岩泉町 【秋田県】鹿角市、小坂町
石巻圏周遊観光促進協議会	【宮城県】石巻市、東松島市、女川町
仙南沿岸地域名亘観光圏協議会	【宮城県】名取市、岩沼市、亘理市、山元町
南会津着地型観光推進協議会	【福島県】下郷町、只見町、南会津町、桧枝岐村

4. 最終的な成果

①磐梯カフェ事業

カフェ事業のコンセプトやターゲット、メニュー、プロモーション計画、収支計画などを検討し、磐梯リゾート社によるカフェ事業の事業計画が完成した。

4月から「空」をテーマとしたカフェ、7月から「山」をテーマとしたカフェがオープンする。4月オープンに当たり、同社は3月中旬から自社ホームページで情報発信を開始した。

図表 15 磐梯リゾート社によるカフェの告知（ホームページ）

The screenshot shows the website's navigation menu with items like '星野リゾート 磐梯山温泉ホテル', 'お食事', 'お風呂', 'お料理', and 'アクティビティ'. Below the menu is a banner for 'おすすめモデルコース' (Recommended Model Course) with four seasonal images: cherry blossoms, green landscape, autumn foliage, and a snowy mountain.

The main content area features a section titled '【磐梯天空カフェ】山と空、二つの景色を楽しむ「床(とこ)エリア」が誕生' (Birth of 'Bed (Toko) Area' to enjoy two landscapes of mountains and sky at Iwate Sky Cafe). The text describes the location and the cafe's opening in April 2014.

On the left sidebar, there are buttons for 'ご予約・空室照会' (Reservation/Room Inquiry) with the phone number 050-3786-0022, '100年 星野リゾート' (100th Anniversary Iwate Resort), '冬の楽しみ' (Winter Fun), and 'MICE STYLE 会議・研修 専用サイト' (MICE Style Meeting/Training Special Site).

Two promotional boxes on the right provide details for the SORA Bed Area:

- 【SORA床エリア】4月26日オープン**
 標高が高い!当ホテルから眺める空の色は青く、
 時には眼下に雲が広がる雲海を眺めることのできるポイントともなります。
 山から吹き下ろす風は清々しく、
 広い空を眺めながらしばし心を無にこして、
 何もしない!時間を過ごして頂けるテラス、
 2014年4月26日に【SORA床】としてオープン致します。
 ※磐梯山温泉ホテルご宿泊のお客様のみのご利用となります
 ※イラストはイメージです
- 【SORA床エリア】ゴールデンウィークに一般開放**
 ゴールデンウィークの下記期間、一般のお客様にも【SORA床】の絶景を体験して頂ける機会をご用意致します。
 開放期間 5月3日～5月5日
 開放時間 10:00～15:00
 利用料金 1,000円(1ドリンク付き)
 春の爽やかな風が吹き下ろすこの時期、
 ぜひ【SORA床】にお立ち寄りください。



【SORA床エリア】磐梯天空ストレッチ

磐梯山から太陽が顔をだし、新しい一日が始まる早朝。

【SORA床】にて「磐梯天空ストレッチ」が始まります。朝の清々しい高原の空気を吸い込み呼吸を整え、ゆっくりと体を目覚めさせます。

期間 2014年4月26日～2014年11月23日
時間 7:15～7:45

[▶ 詳細はこちら](#)



【YAMA床エリア】7月12日オープン

目の前には、日本百名山の一つに数えられる「磐梯山」。そして「磐梯山」を中心とした山々と森から吹き下ろす高原の風。

季節と時間で変わる大自然の風景を愛でる場所として、2014年7月12日に【YAMA床】がオープン致します。



【YAMA床エリア】カフェスポットとして

【YAMA床】での雄大な景色と共に、カフェや軽食もお楽しみ頂けます。

特製ホットサンドやスープ類、「よなよなエール」などのアルコール類や一品メニュー。

ランチからカフェタイムと、旅のスケジュールに合わせてご利用ください。

営業期間 2014年7月12日～2014年10月下旬
営業時間 11:00～15:00

(資料) 磐梯山温泉ホテルホームページより転載 (アクセス日: 2014年3月20日)

また、磐梯リゾート社のカフェ事業は、福島大学での地域活性化を学ぶカリキュラムの中に組み込まれることとなった。具体的には以下のとおりである。

図表 16 福島大学経済経営学類中村陽人准教授との連携概要

連携先	福島大学 経済経営学類 中村陽人准教授 (研究分野: 消費者行動論、マーケティング論)	
連携する授業	<ul style="list-style-type: none"> 2014年4月から開講する大学1年生向け通年授業「教養演習」(ゼミ形式の授業で18名程度)。 中村准教授及び学生に磐梯カフェなどの資源を使った磐梯町地域活性化策を検討してもらい、磐梯町関係者に提案してもらう内容。 	
授業概要	テーマ	(仮) 磐梯町地域活性化プロジェクト～通過型から観光目的地型へ～ 磐梯山ゴールドライン通過者を誘客し、地域を活性化する。地域にお金を落としてもらうために、どのような魅力づくりを図ればよいか? 地域資源の活用方法や打ち出し方の切り口は?

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通年の授業であり、前期は主に磐梯町の現状調査と活性化策の方向性の検討、後期は活性化策の絞り込みと具体化を行う。 ・ 前期・後期ともに期の最後には、磐梯町関係者（行政、主要事業者等）に対する報告会を行う（学生自らがプレゼン資料を作成し、検討した地域活性化プランを発表する）。 ・ 授業開始早々の4月19日・20日には学生の現地調査（下図は内容例）を実施し、磐梯リゾート社が宿泊等の受け入れを行う。必要があれば6月に第2回の現地調査の実施も検討する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>磐梯町役場 商工観光課 ヒアリング 道の駅ばんだい 視察 旧中心商店街 視察 慧日寺、慧日寺資料館 視察 磐梯リゾート開発 ヒアリング・視察 そば打ち体験 柴川酒造 工場見学 磐梯高原 南ヶ丘牧場 視察・体験</p> </div>
----	---

②他地域展開事業

他地域展開事業に関する検討結果を取りまとめ、カフェ事業を他地域に紹介する営業パンフレットを作成した。

図表 17 他地域展開事業用の事業紹介パンフレット

季節の〈旬〉を楽しむ『フィールドカフェ』ご案内

フィールドカフェとは

- 野外にテントやイス・テーブルなどを設置。
- おいしい食とともに、季節の“旬”を五感で楽しむ新たなカフェスタイルです。
- 「スタイリッシュ」「カッコイイ」がキーワード。
- いわゆる「アウトドア」ではありません。
- 戸外でも一流のおもてなしや料理を提供。ラグジュアリーな時間・空間を演出します。

コンセプト

- アウトドアの魅力と一流ホテルやリゾートのサービスや演出を融合させた価値を提案。



フィールドカフェのイメージ

アウトドアの魅力

景色
清涼な空気
自然の音
小動物のさえずり
葉の揺れる音...

香り
変化する楽しみ
暑風 空の色...

お洒落でラグジュアリーな空間・時間

接客
料理
お洒落な空間演出
テント イス テーブル 食器 カタリ...

**四季体感型フィールドカフェ
新しい空間・時間の使い方(=豊かさ)の提案**

ビジョン

フィールドカフェの開業を通じて、

- 地域の人の思いの結集。
- 地元資源の「魅力再発見」。資源の磨き上げ・組み合わせで誘客へ。
- 「過渡型」から「目的地型」の観光地へ。

カフェの特徴

- 自然を最大限活かした魅力的なカフェを、可能な限り初期投資を抑えて開業が可能です。
- フィールドカフェの運営に必要なノウハウやツールを、ワンパッケージでご提供します。
(ご提供内容例) 魅力の打ち出し方、集客方法、カフェツール、料理やおもてなしの方法

ぜひ、フィールドカフェを地域の魅力の1つに付け加えてみてください

フィールドカフェ事例 —2013とから天空カフェin芽室(北海道)—

タイプ	仮設テント+キッチンカー	新嵐山スカイパークからの景色
場所	北海道芽室町新嵐山スカイパーク	
空間演出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十勝平野の360度大パノラマが広がる標高340メートルの展望台に、白いキッチンカーを横付けしたテント仕立てのカフェ。 ・ テーブル数:10程度 席数:30程度 	店内から見える景色
営業期間	2013年9月27日～10月6日(10日間の期間限定)	店舗外観
営業時間	10:00～15:00	
メニュー	<p>ランチ ¥1,500 ・コーンスープ ・芽室町のパン「カントリープラン」のバケット ・メイン(肉/魚) 肉:道産牛ロースのローストビーフ 魚:芽室町上巻生の虹鱈 香草パン粉焼き ・シェフのおすすめデザート ・コーヒーor紅茶orソフトドリンク</p> <p>昼食 ¥600 ・芽室町のパン「カントリープラン」のパン ・コーヒーor紅茶orソフトドリンク(いずれかひとつ) (シフォンケーキ、クリームケーキ、ルバーフ)</p> <p>スムージー ¥600 ※1日限定 10杯</p> <p>⇒ パンやメイン料理に地元食材を活用</p>	店内外の様子
特記	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業初日にオープンセレモニーを開催。十勝の旬の食材を使った料理を用意。 ・ 専門学校で観光やホスピタリティを学ぶ学生をスタッフとして受け入れ。開店前の準備やウエイテレスとして協力。カフェ側は学生が普段学習している知識やスキルを社会の現場で活かす経験を提供。 	レセプションでの料理

開業支援の体制

- 事業性の確認から、カフェツールの提供、運営ノウハウの提供まで、トータルにサポートします。

都市設計
(コンサルタント)

- ・事業性の検討
- ・コーディネート

事業者様

スノーピーク
(アウトドア用品メーカー)

プロットアンド
アジアパシフィック
(プロデュース)

- ・総合プロデュース
- ・帯広カフェの紹介

磐梯リゾート開発
(リゾート経営)

- ・人材育成研修(調理、接客等)
- ・メニュー開発支援
- ・フィールドカフェ「磐梯天空カフェ」の紹介

フィールドカフェの3タイプ			
<ul style="list-style-type: none"> カフェ空間の作り方、料理を作る厨房機能の確保の仕方によって、3種類があります。 それぞれカフェ設置可能な場所や予算感などが異なります。目的や状況に応じてご検討ください。 			
タイプ	簡易テント	仮設テント	仮設テント+キッチンカー
店舗イメージ			
空間づくり *カフェツール	簡易な骨組みと布地で作る「テント」。布地をロープで張っただけの屋根「タープ」で空間作り。	屋根や壁があるしっかりとした骨組みで空間作り。	(左記と同様)
厨房機能	別途確保。そこから料理を運搬する。	(左記と同様)	厨房を備えた車が横付け。車内から料理を直接運び込む。
設置場所の参考例	林間や傾斜地でも可	景色のよい広場・駐車場	景色のよい広場・駐車場
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 地形が制約になりにくい。魅力的な自然に接近できる。 「壁」部分がなく、自然への開放度が高い。 設置に時間・人手がかからず稼働性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 風雨も避けられ、天候を選ばず設置可能。 天候の急変にも対応可能。 屋根・壁のデザインの上、工夫など、空間設計の自由度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> (基本的に左記と同様。加えて以下の特長も) 厨房有無が制約にならない。料理の種類を増やすことが可能。提供時に冷めにくい。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 天候の急変に弱い。 「キャンプ」の雰囲気が出やすい。 近隣に厨房があるかどうか制約になる。 料理の種類を増やしにくい。運搬時に冷めやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きめの平坦地が必要。 近隣に厨房があるかどうか制約になる。 料理の種類を増やしにくい。運搬時に冷めやすい。 カフェ設置に時間と手間。 	<ul style="list-style-type: none"> キッチンカーが入れるルートとスペースが必要。 キッチンカーの確保に費用がかかる。 カフェ設置に時間と手間。
基本構成参考価格	フード カフェメニュー(デザート等) 1,000円～ ランチメニュー 1,200円～	ドリンク	ソフトドリンク 500円～ アルコール 800円～
メニュー	<p>《方針》</p> <ul style="list-style-type: none"> カフェのコンセプトに合うものを選び、コンセプトに合う調理方法を提供する。 「地元産だから(地元で採れた・作られた)」との理由だけで安易にメニューに取り入れない。 《メニュー及び活用する地元産食材の例》 <p>バター・ハニーのワッフル(乳製品、蜂蜜) 牛ロースのローストビーフ(牛肉) ニジマス香草パン・粉焼き(粉) ほろん草のソーテー(バター、ほろん草)</p>		
初期費用(参考)	数十万円より *カフェツール一式購入	数十万円/月より *カフェツール一式レンタル	数十万円/月より *カフェツール一式レンタル
※初期費用は、予算感を掴んで頂くためのあくまで目安です。テーブル・席数やレンタル期間などにより変動いたします。			

開業までの流れ

- ご関心のあるところでは、食資源や風景・ロケーション探査などを行い、事業性の確認を行います。
- 最初は、イベントとコラボした**無償もしくは廉価での「期間限定カフェ」の出店**が可能です。
- その後、実施スキームの検討など、共同で事業立上げが可能です。

The flowchart shows the process from '検討' (Planning) to '準備' (Preparation) to '運営' (Operation). In the '検討' phase, '当方' (Our side) introduces the field cafe, confirms business viability through field surveys, and opens a limited-time cafe. 'ご関心のある地域や事業者様' (Interested areas/businesses) provide '調査費・出店費用' (Investigation and opening costs). In the '準備' phase, '当方' handles tool rental/sale, staff training, and tool deposit/service fees. In the '運営' phase, '当方' provides support, research, and tool deposit/service fees, while 'ご関心のある地域や事業者様' provides common events, promotion, and other support.

収支イメージ - 簡易テントタイプ

※ 席数40席規模の場合、繁忙期の7月8月の2か月間で100万円程度の営業利益が見込まれます。

試算の前提	概算	概要
<ul style="list-style-type: none"> 7月～8月(2か月間)の営業 営業日62日 テント5 テーブル10 チェア40 客数 3,100名(7月)(100名/日) 6,200名(8月)(200名/日) 	200万円 150万円 50万円	ツール購入 食器、ホウライ等購入
<ul style="list-style-type: none"> 客単価(料理1,000円、飲料500円) 注文率(料理30%、飲料70%) 	売上 605万円 売上原価 173万円 粗利益 432万円	原価率28.6% (*) 営業利益 104万円 売上高営業利益率17.2% (**)

(*) 業は日本飲食業協会「小売業の経営指標2012」(飲食店、専売業)の業平均・自己調査データ(企業平均)。
(**) 粗利益/売上高が算出するフルコスト(店舗固定費)を除外した値。
※上記モデルはカフェと関連・運営に必要な最低限の費用のみについて、試算したものです。売上等を保証するものではありません。実際の初期費用及び収支とは異なる可能性があります。

<本件に関する問い合わせ先>
株式会社都市設計 氏家 渥一
〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町2-8-14 8階
Tel: 022-225-0091 E-Mail: ujie_k@toshi-arc-design.jp

5. 今後の計画

① 磐梯カフェ事業

平成26年4月に「空」、7月に「山」をテーマとしたカフェがオープンする。コンセプトや空間づくりの新規性から当面の間は集客が見込めると思われる。今後も継続的に新規客を集め、リピート客を維持するためには、「常に新しい何か」を提供することが重要であることから、(A)磐梯カフェのオリジナルツールの制作、(B)カフェのバリエーションの拡大の2つの方向性で磐梯カフェの魅力を強化していく。

(A) 磐梯カフェのオリジナルツールの制作

4月以降にオープン予定のカフェでは、カフェの設置ツール(テントやパラソルなどの屋根部分、テーブル、イスなど)には既製品を使用予定である。コンセプトに合致した独自性のある空間づくりには、今後オリジナルな物の制作が考えられる。

本事業の中では、インテリアデザイナーを紹介し協議したが、実制作には漕ぎ着けていない。引き続き協議を行う一方で、デザインの様々な可能性を探るため、より幅広いデザイナーと接点をもつことがよい。その際、例えば公開コンペのような形式で、デザイナーの公募から審査・結果発表までを公開の場で進めていく方法もある。ツールの企画・制作プロセス自体をオープンにすることで、話題づくりを兼ねたプロモーションの役割をもたせることも一案である。

(B) カフェのバリエーションの拡大

これまでの検討の中でオープンが決まった「空」、「山」のほかに、「花」、「紅葉」、「滝」をテーマにした案が出ている。実際、広大な敷地の中には様々な魅力的な場所があり、これらをテーマにできる可能性は高い。各テーマの「旬」の時期（そのテーマが一番魅力的に映る時期）が1年の中でズレているとすれば、複数のテーマのカフェをオープンすることで、通年で魅力創出・集客力確保ができると考えられる。

しかし、可能性として挙げたテーマのフィージビリティスタディ（実行可能性調査）はできておらず、具体的な展開場所や展開規模、最適なツール（屋根部分、テーブル、イス等）、オペレーション（受付、送客、調理、接客）などは検討できていない。4月以降にオープンするカフェの集客力やオペレーションなどを検証しながら、その結果を踏まえて次のカフェを検討していく必要がある。

②他地域展開事業

本事業では他地域展開事業の推進体制やサービス内容を検討し、それらを基に事業紹介のパンフレットを作成した

今後は他地域への事業紹介を行い、フィールドカフェ事業に意欲的な事業者の発掘、ツールおよびノウハウの提供による事業化の支援を行う。事業者の発掘については、本事業でリストアップしたスキー場運営者にコンタクトするほか、自治体や観光振興を目的とした協議会から事業者の紹介を受け、コンタクトを図る。

6. 被災地等の他事業者へのインプリケーション

①「自然」の見せ方を工夫することで、収益事業を創出できる

磐梯カフェは、素晴らしい自然や景色と、デザイン性の高いイス・テーブルなどのカフェツール、質の高い料理やサービスを組み合わせることで、アウトドアの魅力とラグジュアリーの両方を実現しようとするものである。磐梯カフェのオープンには2014年の4月以降であるが、本事業での検討を通じて、自然を上手く切り取り、適切に空間演出して消費者に訴求すれば、十分に誘客できること、収益事業となり得ることの成功事例を提供できると考えている。

また、カフェの独自性を高め、他のカフェとの違いを生み出そうとすれば、より地域性を打ち出すことが重要となる。地域性の最大のポイントはカフェ自体を取り囲む自然やカフェから見える景色であるが、もう1つの有効な方法は、地元産の食材を使ったメニュー提供である。その地域でしか取れない食材やその地域ならではの調理方法は、違いを生み出す強力な要素である。カフェでの地元産食材活用が進めば、PR効果や販路確保にも貢献するだろう。

このようなことから、フィールドカフェの事業化のプロセスの中で、「カフェをどの場所に設置すれば魅力的に映るだろうか」、「地元産食材で魅力的な資源はないだろうか。どのようなメニューにすればよいただろうか」などの検討が、地域資源の再発見や創意工夫の端緒にもなり得るだろう。

また、実際にカフェ事業がスタートすれば、新しいコンセプトのカフェとして注目され、集客力の向上や「そのカフェに行ってみてみたい」という観光地としての目的地化にも貢献していくだろう。

②フィールドカフェに関心をもつ事業者は、磐梯リゾート社などから支援を受けることができ、円滑な事業立上げを期待できる

フィールドカフェは単なる「野外で開くカフェ」ではない。「来店客にどのような景色を見せるのか」など着席時の視線まで意識しながら空間づくりを図るものであり、提供される料理やサービスの質や地域性にもこだわったものである。

フィールドカフェ事業に関心があってもこのようなノウハウを持っているとは限らないため、本事業では事業立上げの支援体制を構築した。支援には、カフェ空間を形作るためのツールの提供（イス、テーブル等）から、メニュー開発、受付・調理・接客のオペレーションなどの運営ノウハウの提供までをパッケージにしている。

この支援サービスを受けることで、フィールドカフェ事業は立上げやすくなっている。